

## 2023年3月期第3四半期決算説明会



2023年1月31日  
西日本旅客鉄道株式会社

- 経営戦略部 部長の深野でございます。
- はじめに、先日発生させた運行トラブルについて申し上げます。1月24日からの雪の影響に伴い、長時間運転を見合せ、また長時間にわたる駅間での停車などにより、駅や車内でお待ちいただき、多くのお客様に多大なるご迷惑をおかけいたしました。皆様にも大変ご心配をおかけいたしました。改めてお詫び申し上げます。
- 今回の弊社の判断や対応の問題点をしっかりと検証し、必要な改善策を速やかに講じてまいります。
- 本日は、第3四半期決算の概要についてご説明したのち、皆様からのご質問をお受けしたいと思います。
- それでは資料の3ページをご覧ください。

1

23.3期第3四半期決算及び通期予想の概要 P. 3

---

2

23.3期第3四半期決算及び通期予想（詳細） P. 10

---

1

23.3期第3四半期決算及び通期予想の概要 P. 3

---

2

23.3期第3四半期決算及び通期予想（詳細） P. 10

---

## 23.3期3Q決算・通期業績予想 ハイライト

- **23.3期第3四半期**は、第7波収束後の需要回復に加え、全国旅行支援や水際対策緩和等の効果もあり、第3四半期累計で、**連結・単体ともに20.3期以来3期ぶり**の**黒字**。
- **コスト構造改革**の取組みは、今期単体**▲200億円**の計画に対し、第3四半期末積は**▲155億円**。
- 新幹線需要の実勢としては9割未達と見ており、今後も第8波の影響が懸念されるところではあるが、**通期業績予想は達成できる見通し**。配当についても**従来予想を据え置く**。

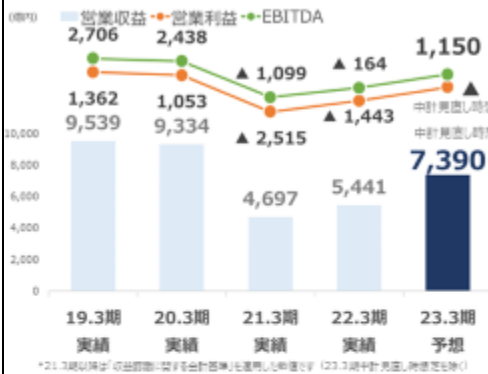
	22.3期	23.3期	対前年		23.3期	対前年		対中計見直し
	3Q累計実績	3Q累計実績	差額	比率		通期予想	差額	
<b>【連結】</b>								
営業収益	7,299	<b>9,748</b>	+2,448	133.5%	<b>13,090</b>	+2,778	127.0%	90.3%
営業費用	8,094	<b>9,048</b>	+953	111.8%	<b>12,790</b>	+1,288	111.2%	97.6%
営業利益/損失(▲)	▲794	<b>699</b>	+1,494	-	<b>300</b>	+1,490	-	21.4%
経常利益/損失(▲)	▲826	<b>598</b>	+1,424	-	<b>135</b>	+1,345	-	10.8%
親会社株主に帰属する 四半期純利益/損失(▲)	▲540	<b>873</b>	+1,413	-	<b>585</b>	+1,716	-	73.1%
EBITDA	401	<b>1,880</b>	+1,478	467.8%	<b>1,930</b>	+1,500	449.9%	58.5%
<b>【単体】</b>								
運輸収入	3,651	<b>5,103</b>	+1,451	139.8%	<b>6,730</b>	+1,853	138.0%	86.8%
営業費用	5,102	<b>5,374</b>	+271	105.3%	<b>7,645</b>	+598	108.5%	97.4%

\*「対中計見直し」の比率は「収益認識に関する会計基準」の影響を加味していません。

3

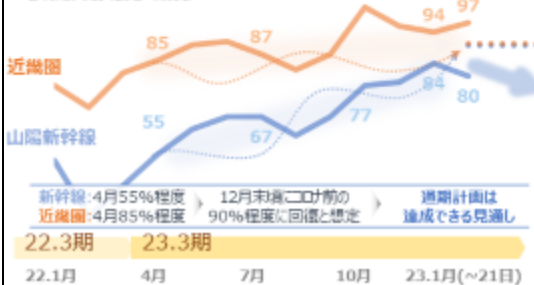
- 第3四半期の連結決算につきましては、営業収益9,748億円、営業利益699億円、四半期純利益873億円でございます。
- 運輸収入をはじめとして回復基調にあったこと、また、グループをあげて構造改革の取組みに努めたことなどにより、第3四半期としては20年3月期以来3期ぶりに、各利益項目で黒字を確保することができました。
- コスト構造改革の取組みにつきましては、今期単体で▲200億円を削減する計画ですが、第3四半期累計で▲155億円削減しました。これに緊急的コスト抑制を加えましたコスト削減全体としましては、今期連結で▲1,170億円を削減する計画ですが、第3四半期累計で▲800億円の削減を実行しました。
- なお、連結四半期純利益873億円につきましては、第1四半期決算発表時にご案内のとおり、産業競争力強化法に基づく事業適応計画の認定によりまして、向こう5ヶ年の課税所得に対する繰越欠損金の控除限度額が拡大される特例を受けることから、法人税等におきまして▲435億円減の税効果影響が発生しております。
- 通期業績予想につきましては、第7波の収束以降、全国旅行支援や水際対策の緩和といった公的な需要喚起策の効果もあり、第3四半期は概ね想定どおり推移したものの、12月末にコロナ前の9割としたご利用想定に対し、新幹線需要の実勢としては未達であると認識しております。さらに、第8波の影響長期化等のリスクも想定されるところではありますが、現時点、通期計画については達成できる見込みであると考えております。
- 費用計画が概ね想定どおり推移していることを踏まえまして、通期業績予想については修正せず、配当予想についても据え置くことといたしました。
- この間の取組みとして、ダイスを振るというゲーム感覚とリアルな旅を融合した新たな価値が受け入れられ、サイコロきっぷの第3弾も大変ご好評いただきました。引き続き、全国旅行支援の延長といった機会を実需につなげるべく、様々な需要喚起に努めてまいります。
- 次のページをご覧ください。

## 23.3期3Q決算・通期業績予想 運輸業



### ■ 23.3期における想定(前提)

山陽新幹線(新大阪~西明石間)・近畿圏(近距離発売枚数)の利用実績・想定(前提)



### ■ 営業収益

	22.3期3Q累計実績	23.3期3Q累計実績
営業収益	4,065	5,520
うち単体運輸収入	3,651	5,103
新幹線	1,581	2,563
近畿圏	1,580	1,905
その他在来線	489	634

### ■ 営業利益

	22.3期3Q累計実績	23.3期3Q累計実績
営業利益	▲937	310

### ■ EBITDA

	22.3期3Q累計実績	23.3期3Q累計実績
EBITDA	10	1,233

### ■ ポイント

- 12月末頃にコロナ前の9割程度に回復するとの想定に対し、第3四半期の3か月間は、第7波収束後の需要回復に加え、全国旅行支援等の効果もあり、概ね計画どおり推移。
- 第4四半期は「第8波」の長期化等による影響が懸念される点であるが、今のところ通期計画は達成できる見通し。

- それでは各事業別にご説明いたします。まず、運輸業です。
- 第3四半期の運輸収入は、5,103億円でした。これは、前年対比で+1,451億円増、コロナ前となる20年3月期対比では75%の水準でございます。
- 内訳はご覧のとおりですが、うち新幹線につきましては、山陽新幹線が2,325億円、北陸新幹線が237億円でした。
- 第7波の収束以降、近畿圏につきましては実勢として9割まで回復しているとらえておりますが、新幹線につきましては、全国旅行支援や水際対策の緩和といった公的な需要喚起策の効果があってなお8割台の回復にとどまっており、実勢として、想定した12月末9割という水準には未達であると認識しております。
- 新たな派生型ウイルスの出現等、第8波の影響長期化といったリスクも想定される点ではありますが、第3四半期までの実績を踏まえ、現時点、通期計画については達成できる見込みであり、従来予想を据え置いています。
- 次のページをご覧ください。

## 23.3期3Q決算・通期業績予想 流通業



### ■ 23.3期における売上高想定(前提)



### ■ 営業収益 (主な内訳) (億円)

	22.3期3Q累計実績	23.3期3Q累計実績
物販飲食業	762	1,043
うち Viain	47	91
百貨店業	132	161

※各内訳は子会社の数値であり、その合計はセグメント数と一致しません

### ■ 営業利益 (主な内訳) (億円)

	22.3期3Q累計実績	23.3期3Q累計実績
物販飲食業	▲65	34
うち Viain	▲53	29
百貨店業	▲12	2

※各内訳は子会社の数値であり、その合計はセグメント数と一致しません

### ■ EBITDA (主な内訳) (億円)

	22.3期3Q累計実績	23.3期3Q累計実績
物販飲食業	▲23	76
うち Viain	▲24	58
百貨店業	▲5	9

※各内訳は子会社の数値であり、その合計はセグメント数と一致しません

### ■ ポイント

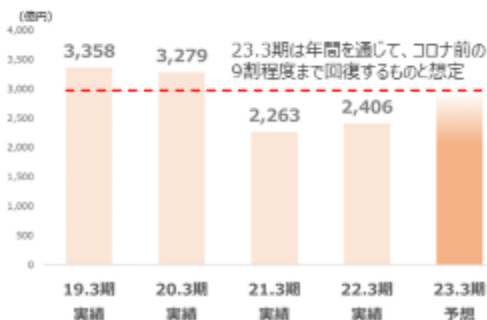
- コロナの影響の緩和に伴い、駅構内店舗や百貨店売上が回復。Viainをはじめ、全国旅行支援等の効果も。5

- 流通業です。
- 第3四半期は、前年対比+314億円の増収、営業利益は同じく+100億円増益の34億円となりました。駅構内店舗や百貨店の売上が回復し、上期に続き、黒字となりました。
- 今期は物販店舗・百貨店とも、年間を通じてコロナ前対比9割程度の売上を想定しておりますが、今のところ概ね想定の範囲内で推移しております。
- 次のページをご覧ください。

## 23.3期3Q決算・通期業績予想 不動産業



### ■ 23.3期におけるSC売上高想定(前提)



### ■ 営業収益 (主な内訳)

	22.3期3Q累計実績	23.3期3Q累計実績
営業収益	998	1,116
不動産賃貸・販売業	648	721
うち 不動産賃貸	357	380
不動産販売	291	340
SC業	337	389

### ■ 営業利益 (主な内訳)

	22.3期3Q累計実績	23.3期3Q累計実績
営業利益	240	275
不動産賃貸・販売業	137	156
うち 不動産賃貸	114	111
不動産販売	23	45
SC業	42	65

### ■ EBITDA (主な内訳)

	22.3期3Q累計実績	23.3期3Q累計実績
EBITDA	428	472
不動産賃貸・販売業	266	291
SC業	89	116

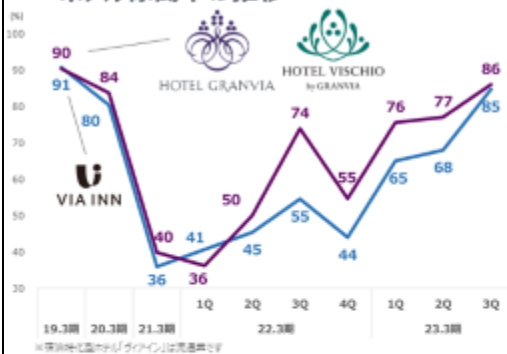
### ■ ポイント

- 新規開業物件やその平年度化、投資家向け販売・SC売上高の増により、対前年増収増益。

- 不動産業です。
- 第3四半期は、前年対比+118億円の増収、営業利益は同じく+34億円増益の275億円でした。
- 前年に開業した賃貸物件の平年度化や投資家向け販売が増加したほか、SC売上高の回復により賃料収入が増加しました。
- 今期のSC売上高はコロナ前対比9割程度と想定しておりますが、今のところ概ね想定範囲内で推移しております。
- 次のページをご覧ください。

## 23.3期3Q決算・通期業績予想 その他事業（ホテル業・旅行業）

### ■ ホテル稼働率の推移



### ■ 23.3期における想定(前提)

#### 【ホテル業】

- 22年4月の稼働率はコロナ前の7割程度
- 鉄道需要の回復に伴い、4Qでコロナ前の9割程度まで回復するものと想定

#### 【旅行業】

- 22年4月における国内旅行商品の予約状況はコロナ前の3割程度
- 旅行需要の緩やかな回復に伴い、22年12月末時点で国内旅行収入はコロナ前の6割程度と想定

### ■ 営業収益（主な内訳）

	22.3期3Q累計実績	23.3期3Q累計実績
ホテル業	140	230
旅行業	595	1,011

※各内訳は本女子会社の会計値であり、その合計はセグメント計と一致しません

### ■ 営業利益（主な内訳）

	22.3期3Q累計実績	23.3期3Q累計実績
ホテル業	▲69	▲17
旅行業	▲2	47

※各内訳は本女子会社の会計値であり、その合計はセグメント計と一致しません

### ■ EBITDA（主な内訳）

	22.3期3Q累計実績	23.3期3Q累計実績
ホテル業	▲43	7
旅行業	0	50

※各内訳は本女子会社の会計値であり、その合計はセグメント計と一致しません

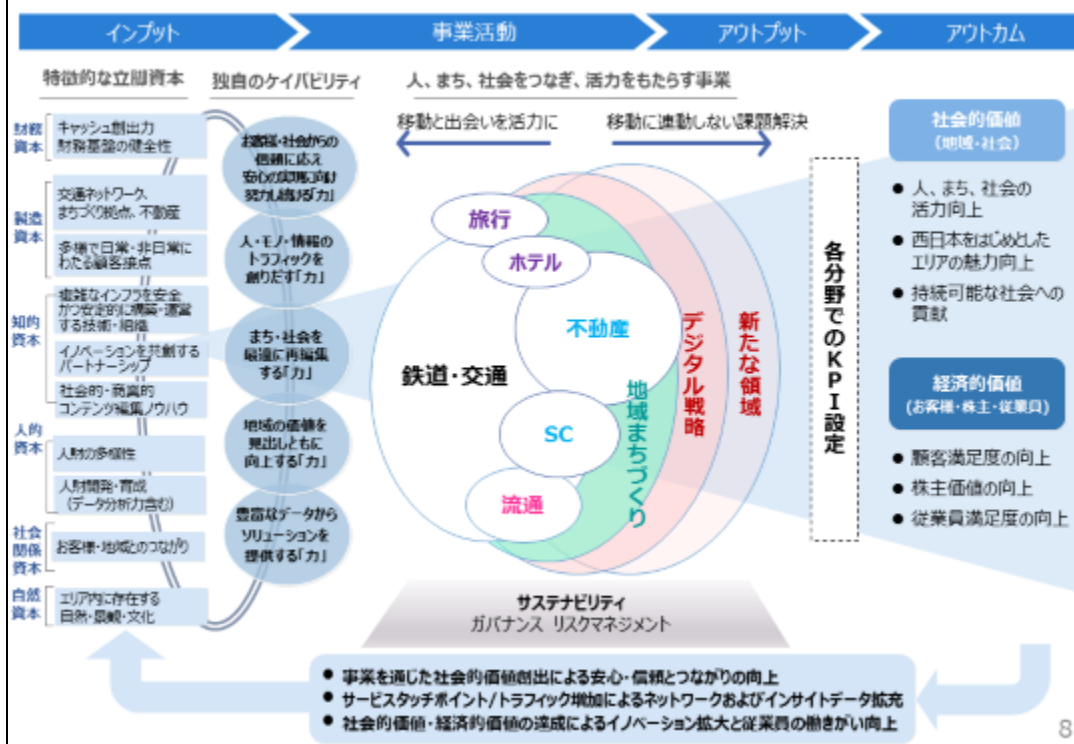
### ■ ポイント

- ホテル業においては、コロナ影響が軽減したこと、また全国旅行支援や水際対策緩和の効果もあり、宿泊部門を中心に業績が回復。
- 旅行業(第3四半期は7-9月)においては、第7波のなか、ワクチン接種事務局業務等のソリューション事業が引き続き堅調。計画を上回って推移している。

- その他の事業です。
- ホテル業につきましては、ご覧のとおり、客室稼働率は改善の傾向にあります。全国旅行支援や水際対策緩和の効果等により宿泊部門を中心に業績が回復しました。前年対比では+90億円の増収、+52億円損益改善し、第3四半期の3か月間に限れば黒字を確保しました。
- 旅行業につきましては、引き続きワクチン接種の事務局業務受託などのソリューション事業が牽引し、前年対比+416億円の増収、営業利益は同じく+50億円増益の47億円となりました。
- なお、いずれの事業セグメントにおきましても、現時点、概ね想定範囲内で推移しておりますことから、通期業績予想は期首にお示したものを据え置いております。
- 次のページをご覧ください。



# 長期的な価値創造および次期中計に向けて



- 現在、来期以降の新しい中期経営計画の策定を進めています。
- 安全は弊社グループにとって最重要の経営課題であり、それは今後も決して変わることはありません。
- 他方、コロナ禍を経て社会も大きく変化しているなか、20年、30年先の社会を思い描きながら、弊社グループ事業のあるべき姿や提供する価値・役割を再定義し、中計だけでなく、弊社のパーパス・長期ビジョンとしてお示しする準備を進めています。
- 新中計は、そのパーパス・長期ビジョンからのバックキャストにより、今後数年間の具体的な取組みを示すものです。
- コロナ禍後の社会の進化を踏まえると、変革・復興のスピードを加速させ、少しでも早く進化・成長のステージへと突き進んでいくべきであり、そのためにも、新中計は非常に重要なものとなります。
- 「鉄道の活性化」として、収益面では、DXが可能にするデータドリブンなグループマーケティングでお客様一人一人への提供価値を高めることやイールドマネジメントの高度化により、「単価×移動量」として最適化していきます。
- また、地域まちづくりなどで新たな移動需要を創出することに加えて、一層の回復が見込まれるインバウンド需要の取り込みにより、更に移動量を増やしていく考えですが、鉄道以外の既存事業においても、これまで以上にシナジーを生み出したいと考えています。
- 費用面でも、これもDXが可能にするデータドリブンなメンテナンスによる合理化などを更に進め、構造的削減を深度化させていきます。
- 一方、物価高騰などコントロールの利かない外部要因の脅威も顕在化しており、計画策定においては大変苦心しているところです。
- 加えて注力したいのが、「移動」に連動しない次世代に向けた新しい事業の柱づくりです。弊社グループがこれからの社会においても持続的な成長を果たしていくためには、事業のもう一つの柱を作り、ポートフォリオを再構築していくことが重要であると認識しており、相応の設備投資も必要と考えています。
- 鉄道の安全を追求し続けるとともに、未来への進化を見据えて、新たな事業の創出に挑んでいきたいと考えています。
- 新中計につきましては、改めて公表させていただきます。

1

23.3期第3四半期決算及び通期予想の概要 P. 3

---

2

23.3期第3四半期決算及び通期予想（詳細） P. 10

---

# 決算ハイライト

(単位：億円)

	2022年3月期 3Q累計実績 A	2023年3月期 3Q累計実績 B	対前年		2022年3月期 通期末実績 C	2023年3月期 通期予想 (1/31)* D	対前年	
			増減 B-A	比率(%) B/A			増減 D-C	比率(%) D/C
<b>【連 結】</b>								
営業収益	7,299	9,748	+2,448	133.5	10,311	13,090	+2,778	127.0
営業利益又は損失 (▲)	▲ 794	699	+1,494	-	▲ 1,190	300	+1,490	-
経常利益又は損失 (▲)	▲ 826	598	+1,424	-	▲ 1,210	135	+1,345	-
株式会社エヌエフ 四半期 (当期 経常利益又は損失 (▲))	▲ 540	873	+1,413	-	▲ 1,131	585	+1,716	-
<b>【個 体】</b>								
営業収益	4,307	5,814	+1,507	135.0	5,776	7,690	+1,913	133.1
運給収入	3,651	5,103	+1,451	139.8	4,876	6,730	+1,853	138.0
営業費用	5,102	5,374	+271	105.3	7,046	7,645	+598	108.5
人件費	1,348	1,383	+34	102.6	1,807	1,775	▲ 32	98.2
物件費	2,326	2,571	+245	110.6	3,347	3,975	+627	118.8
動力費	294	423	+128	143.7	408	590	+181	144.6
修繕費	895	886	▲ 8	99.0	1,367	1,510	+142	110.5
賞与費	1,136	1,261	+125	111.0	1,572	1,875	+302	119.3
減価償却費	943	917	▲ 25	97.3	1,272	1,255	▲ 17	98.6
営業利益又は損失 (▲)	▲ 795	440	+1,235	-	▲ 1,270	45	+1,315	-
経常利益又は損失 (▲)	▲ 886	328	+1,214	-	▲ 1,382	▲ 100	+1,282	-
四半期 (当期 経常利益又は損失 (▲))	▲ 523	716	+1,240	-	▲ 1,216	480	+1,696	-

\*2023年11月1日発表の通期予想から変更して初算見込

# 単体損益計算書と業績予想

(単位：億円)

	2022年3月期 3Q累計実績	2023年3月期 3Q累計実績	対前年		2022年3月期 通期実績	2023年3月期 通期予想 (1/31)*	対前年	
			増減	比率(%)			増減	比率(%)
	A	B	B-A	B/A	C	D	D-C	D/C
営業収益	4,307	5,814	+1,507	135.0	5,776	7,690	+1,913	133.1
運輸収入	3,651	5,103	+1,451	139.8	4,876	6,730	+1,853	138.0
その他収入	656	711	+55	108.4	899	960	+60	105.7
営業費用	5,102	5,374	+271	105.3	7,046	7,645	+598	108.5
人件費	1,348	1,383	+34	102.6	1,807	1,775	▲ 32	98.2
物件費	2,326	2,571	+245	110.6	3,347	3,975	+627	118.8
動力費	294	423	+128	143.7	408	590	+181	144.6
修繕費	895	886	▲ 8	99.0	1,367	1,510	+142	110.5
業務費	1,136	1,261	+125	111.0	1,572	1,875	+302	119.3
線路使用料等	200	199	▲ 0	99.7	267	270	+2	100.8
租税公課	285	302	+17	106.0	351	370	+18	105.3
減価償却費	943	917	▲ 25	97.3	1,272	1,255	▲ 17	98.6
営業利益又は損失(▲)	▲ 795	440	+1,235	-	▲ 1,270	45	+1,315	-
営業外損益	▲ 91	▲ 111	▲ 20	-	▲ 112	▲ 145	▲ 32	-
営業外収益	82	54	▲ 27	-	133	80	▲ 53	-
営業外費用	173	166	▲ 7	-	246	225	▲ 21	-
経常利益又は損失(▲)	▲ 886	328	+1,214	-	▲ 1,382	▲ 100	+1,282	-
特別損益	218	72	▲ 146	-	110	170	+59	-
特別利益	294	161	▲ 133	-	541	185	▲ 356	-
特別損失	75	88	+12	-	431	15	▲ 416	-
四半純(最終) 特別益又は特別損失(▲)	▲ 523	716	+1,240	-	▲ 1,216	480	+1,696	-

\*2022年11月1日発表の通期予想から変更しております

## 運輸収入の主な増減要因

(単位：億円)

		2023年3月期 3Q累計実績		
		運輸収入	対前年	主な増減要因
新幹線	2,563	+982 (162.1%)	基礎トレンド(100.0%)	
			特殊要因	+932
				+17
				等
在来線	1,905	+324 (120.6%)	基礎トレンド(100.0%)	
			特殊要因	+301
				+14
				等
在来線	634	+144 (129.6%)	基礎トレンド(100.0%)	
			特殊要因	+136
				+3
				等
在来線計		2,540	+469 (122.7%)	
運輸収入計		5,103	+1,451 (139.8%)	

※ 荷物収入は金額些少のため省略

# 運輸収入と旅客輸送量の実績と業績予想

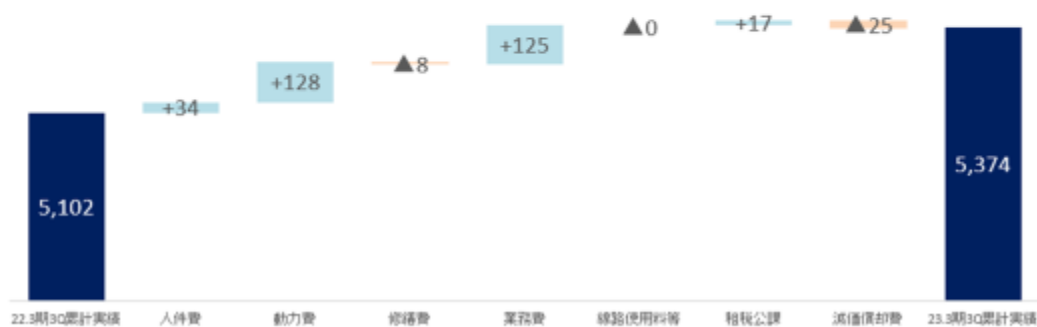
	運輸収入 (単位: 億円)									輸送人キロ (単位: 百万人キロ)					
	3Q累計実績 (4/1~12/31)			2Q実績 (10/1~12/31)			通期実績/予想			3Q累計実績 (4/1~12/31)			2Q実績 (10/1~12/31)		
	2022年 3月期	2022年 3月期	対前年	2022年 3月期	2022年 3月期	対前年	2022年 2月期 達成実績	2022年 3月期 達成予想 (1/21)	対前年	2022年 3月期	2022年 3月期	対前年	2022年 3月期	2022年 3月期	対前年
全社計	3,651	5,103	+1,451 138.8%	1,551	1,896	+345 122.2%	4,876	6,730	+1,854 128.0%	28,273	35,636	+7,363 126.0%	11,008	12,837	+1,829 116.6%
新幹線	1,581	2,563	+982 162.1%	751	994	+243 132.4%	2,116	3,390	+1,274 160.2%	7,280	11,843	+4,563 162.7%	3,473	4,651	+1,178 133.0%
定期	80	84	+4 105.2%	26	28	+2 103.8%	106	-	-	623	658	+35 105.6%	205	217	+12 106.0%
定期外	1,500	2,478	+977 165.2%	724	966	+242 133.4%	2,010	-	-	6,657	11,185	+4,528 168.0%	3,268	4,433	+1,165 135.7%
在来線	2,070	2,540	+469 122.7%	800	901	+101 112.7%	2,760	3,240	+479 121.0%	20,993	23,792	+2,799 113.3%	7,534	8,185	+651 108.6%
定期	905	938	+33 103.7%	303	312	+9 103.0%	1,191	-	-	14,669	15,194	+524 103.6%	4,881	4,986	+105 102.2%
定期外	1,165	1,601	+436 137.3%	496	589	+92 118.6%	1,569	-	-	6,323	8,598	+2,275 136.0%	2,653	3,199	+546 122.0%
近畿圏	1,580	1,905	+324 102.8%	597	670	+73 112.2%	2,107	2,510	+402 119.1%	16,658	18,669	+2,010 112.1%	5,921	6,399	+477 108.1%
定期	742	772	+30 104.0%	249	256	+7 102.2%	978	-	-	11,983	12,461	+478 104.0%	4,002	4,101	+99 102.6%
定期外	838	1,133	+295 125.2%	348	413	+65 118.7%	1,128	-	-	4,675	6,207	+1,531 122.6%	1,919	2,297	+378 118.9%
その他	489	634	+144 129.6%	202	230	+28 114.0%	653	830	+176 127.1%	4,334	5,123	+789 118.2%	1,613	1,786	+173 110.8%
定期	163	166	+3 102.1%	54	55	+1 102.4%	212	-	-	2,686	2,732	+46 102.7%	878	884	+6 100.2%
定期外	326	467	+141 143.3%	148	175	+27 118.2%	440	-	-	1,647	2,391	+743 145.1%	734	901	+167 122.7%

\*2022年11月1日発表の通期予想より変更しております。

## 単体営業費用の主な増減要因

(単位：億円)

	2023年3月期 3Q累計実績			主な増減要因
		対前年		
人件費	1,383	+34	102.6%	賞与の増 等
動力費	423	+128	143.7%	燃料費調整額の増 等
修繕費	886	▲8	99.0%	コスト構造改革による減、工事進捗差 等
業務費	1,261	+125	111.0%	収入連動経費の増、燃料費調整額の増、広告宣伝費の増 等
線路使用料等	199	▲0	99.7%	
租税公課	302	+17	106.0%	法人事業税の増 等
減価償却費	917	▲25	97.3%	償却進捗 等
営業費用計	5,374	+271	105.3%	



# 連結損益計算書と業績予想

(単位：億円)

	2022年3月期 3Q累計実績 A	2023年3月期 3Q累計実績 B	対前年		2022年3月期 週期実績 C	2023年3月期 週期予想 (1/31)* D	対前年	
			増減 B-A	比率(%) B/A			増減 D-C	比率(%) D/C
営業収益	7,299	9,748	+2,448	133.5	10,311	13,090	+2,778	127.0
営業費用	8,094	9,048	+953	111.8	11,501	12,790	+1,288	111.2
営業利益又は損失(▲)	▲ 794	699	+1,494	-	▲ 1,190	300	+1,490	-
営業外損益	▲ 31	▲ 101	▲ 69	-	▲ 19	▲ 165	▲ 145	-
営業外収益	160	72	▲ 88	-	236	72	▲ 164	-
営業外費用	192	174	▲ 18	-	255	237	▲ 18	-
経常利益又は損失(▲)	▲ 826	598	+1,424	-	▲ 1,210	135	+1,345	-
特別損益	225	45	▲ 179	-	154	90	▲ 64	-
特別利益	329	148	▲ 181	-	588	-	-	-
特別損失	104	102	▲ 1	-	433	-	-	-
税金等調整後の 当連結(当連結)特別利益又は損失(▲)	▲ 540	873	+1,413	-	▲ 1,131	585	+1,716	-
(四半期) 包括利益	▲ 543	924	+1,467	-	▲ 1,122	-	-	-

\*2022年11月1日発表の業績予想から変更してありません。



# セグメント情報と業績予想

(単位：億円)

	2022年3月期 3Q累計実績	2023年3月期 3Q累計実績	対前年		2022年3月期 通期実績	2023年3月期 通期予想 (1/31) <sup>*)</sup>	対前年	
			増減	比率(%)			増減	比率(%)
	A	B	B-A	B/A	C	D	D-C	D/C
営業収益 <sup>*)</sup>	7,299	9,748	+2,448	133.5	10,311	13,090	+2,778	127.0
運輸業	4,065	5,520	+1,455	135.8	5,441	7,390	+1,948	135.8
流通業	926	1,240	+314	133.9	1,242	1,680	+437	135.2
物販・飲食	762	1,043	+281	136.9	1,020	1,390	+369	136.3
【瀬田特化型ホテル(酒樓) <sup>*)</sup>	[47]	[91]	[+44]	[193.3]	[62]	[125]	[+62]	[199.5]
百貨店	132	161	+28	121.6	181	240	+58	132.5
不動産業	998	1,116	+118	111.9	1,511	1,620	+108	107.2
3ayt'ingホテル	337	389	+51	115.4	456	540	+83	118.3
不動産賃貸・販売	648	721	+72	111.1	1,040	1,075	+34	103.3
【不動産販売(再掲)】	[291]	[340]	[+49]	[116.8]	[566]	[573]	[+6]	[101.2]
その他	1,310	1,870	+560	142.8	2,115	2,400	+284	113.5
ホテル	140	230	+90	164.3	185	315	+129	169.6
旅行	595	1,011	+416	170.0	959	1,110	+150	115.7
営業利益又は損失(▲) <sup>*)</sup>	▲794	699	+1,494	-	▲1,190	300	+1,490	-
運輸業	▲937	310	+1,247	-	▲1,443	▲110	+1,333	-
流通業	▲65	34	+100	-	▲86	20	+106	-
物販・飲食	▲53	29	+83	-	▲71	10	+81	-
【瀬田特化型ホテル(酒樓) <sup>*)</sup>	[▲32]	[▲10]	[+21]	-	[▲43]	[▲20]	[+23]	-
百貨店	▲12	2	+15	-	▲14	5	+19	-
不動産業	240	275	+34	114.5	300	350	+49	116.6
3ayt'ingホテル	42	65	+23	155.9	45	70	+24	154.1
不動産賃貸・販売	137	156	+18	113.3	172	200	+27	115.9
【不動産販売(再掲)】	[23]	[45]	[+21]	[190.9]	[64]	[72]	[+7]	[112.3]
その他	▲55	51	+107	-	29	70	+40	235.1
ホテル	▲69	▲17	+52	-	▲90	▲40	+50	-
旅行	▲2	47	+50	-	24	0	▲24	-

<sup>\*)</sup> 各セグメントの内訳は、主として子会社の会計額であり、セグメント間と一致しません。

<sup>\*\*)</sup> 瀬田特化型ホテル(酒樓)の会計額です。ただし、津島店(その他業)、広島岡山酒店(その他業)は除きます。

<sup>\*\*)</sup> 2022年11月1日発表の通期予想から変更してありません。

## 各セグメントの主な増減要因

(単位：億円)

			2023年3月期 3Q累計実績			主な増減要因
			対前年			
			増減	比率(%)		
流通業	物販・飲食	営業収益	1,043	+281	136.9	・緩やかな需要回復による構内店舗の売上増、 旅行需要の回復による宿泊特化型ホテルの売上増 等
		営業利益	29	+83	-	
	百貨店	営業収益	161	+28	121.6	・緩やかな需要回復による店舗の売上増 等
		営業利益	2	+15	-	
不動産業	ショッピングセンター	営業収益	389	+51	115.4	・SC売上高回復による賃料収入の増、 富山「MAROOT」開業 等
		営業利益	65	+23	155.9	
	不動産賃貸・販売	営業収益	721	+72	111.1	・賃貸物件の平年度化、投資家向け販売の増 等
		営業利益	156	+18	113.3	
その他	ホテル	営業収益	230	+90	164.3	・旅行需要の回復による宿泊部門の売上増 等
		営業損失	▲ 17	+52	-	
	旅行	営業収益	1,011	+416	170.0	・旅行、非旅行事業の増 等
		営業利益	47	+50	-	

※各セグメントの内訳は、主な子会社の合計値であり、セグメント計と一致しません

## 連結財政状況

(単位：億円)

	2022年3月期 期末 A	2023年3月期 3Q期末 B	増減 B-A
資産	37,024	37,139	+114
負債	26,282	25,730	▲551
純資産	10,742	11,408	+666
長期債務残高	17,248	16,842	▲406
【長期債務平均金利 (%)】	【1.17】	【1.19】	【+0.02】
新幹線債務	998	992	▲5
【新幹線債務平均金利 (%)】	【6.55】	【6.55】	【-】
社債	9,749	9,699	▲49
【社債平均金利 (%)】	【0.98】	【0.98】	【-】
DER	1.8	1.6	▲0.2
自己資本比率 (%)	26.2	27.8	+1.6
1株当たり純資産 (円)	3,973.15	4,238.98	+265.83

## 諸元表

(単位：人、億円)

	2022年3月期 3Q累計実績		2023年3月期 3Q累計実績		2022年3月期 通期実績		2023年3月期 通期予想(1/31) <sup>*2</sup>	
	連結	単体	連結	単体	連結	単体	連結	単体
連結ROA (%)	-		1.9		-		0.8	
連結ROE (%)	-		8.7		-		5.9	
連結EBITDA <sup>*1</sup>	401		1,880		429		1,930	
連結減価償却費	1,187		1,180		1,608		1,630	
連結設備投資 (自己資金)	1,117		1,056		2,131		2,450	
単体設備投資 (自己資金)	790		765		1,494		1,640	
安全関連投資	435		330		830		730	
1株当たり配当金 (円)	50.0		50.0		100.0		100.0	

	2022年3月期 3Q累計実績		2023年3月期 3Q累計実績		2022年3月期 通期実績		2023年3月期 通期予想(1/31) <sup>*2</sup>	
	連結	単体	連結	単体	連結	単体	連結	単体
期末従業員数 (就業人員)	47,212	22,790	45,145	21,748	46,779	22,715	-	-
金融収支	▲ 138	▲ 137	▲ 147	▲ 135	▲ 181	▲ 188	▲ 198	▲ 181
受取利息・配当金	22	22	10	21	32	24	12	26
支払利息	160	159	157	156	214	212	210	208

<sup>\*1</sup> EBITDA = 営業利益又は損失 + 減価償却費 + のれん償却額

<sup>\*2</sup> 2022年11月1日発表の通期予想から変更しておりません

## 将来の見通しに関する注意事項

- 本スライドは、JR西日本の事業、産業及び世界の資本市場についてのJR西日本の現在の予定、推定、見込み又は予想に基づいた将来の展望についても言及しています。
- これらの将来の展望に関する表明は、さまざまなリスクや不確かさがつきまとっています。通常、このような将来への展望に関する表明は、「かもしれない」、「でしょう」、「予定する」、「予想する」、「見積もる」、「計画する」、又はこれらに類似する将来のことを表す表現で表わされています。これらの表明は、将来への予定について審議し、方策を確認し、運営実績やJR西日本の財務状況についての予想を含み、又はその他の将来の展望について述べています。
- 既に知られた若しくははまだ知られていないリスク、不確かさその他の要因が、かかる将来の展望に対する表明に含まれる事柄とも大いに異なる現実の結果を引き起こさないとも限りません。JR西日本は、この将来の展望に対する表明に示された予想が結果的に正しいと約束することはできません。JR西日本の実際の結果は、これら展望と著しく異なるか、さらに悪いこともありえます。
- 実際の結果を予想と大いに異なるものとする重要なリスク及び要因には、以下の項目が含まれますが、それに限られるわけではありません。
  - 財産若しくは人身の損害に関する費用、責任、収入減、若しくは悪い評判
  - 経済の悪化、デフレ及び人口の減少
  - 日本の法律、規則及び政府の方針の不利益となる変更
  - 旅客鉄道会社及び航空会社等の親合企業が採用するサービスの改善、価格の引下げ及びその他の戦略
  - 感染症の発生・流行
  - 地震及びその他の自然災害のリスク、及び情報通信システムの不具合による、鉄道その他業務運営の阻害
- 本スライドに掲げられたすべての将来の展望に関する表明は、2023年1月31日現在においてJR西日本に利用可能な情報に基づいて、2023年1月31日現在においてなされたものであり、JR西日本は、将来の出来事や状況を反映して、将来の展望に関するいかなる表明の記載をも更新し、変更するものではありません。
- なお、2005年4月25日に発生させた福知山線列車事故に関する今後の補償費用等については、現時点で金額等を合理的に見積もることが困難なことから、本スライドの見通しには含まれておりません。

当資料は、弊社ホームページでご覧いただけます。  
JR西日本ホームページ「IR情報」 <https://www.westjr.co.jp/company/ir/>